

- ・進路・就職支援センター 田村さん、戸田さん、松本課長
- ・山田啓二教授

1) 進路・就職支援センターから

- ・今年度の合格状況（センター把握分）

厚生労働省麻取 と 法務省法務教官 の2名

自衛隊 内定保留を含めて10名 うち1名は幹部候補生

警察官 （2、3次募集はこれから） 内定保留を含めて25名

消防官 3名（京都市1名、東京消防庁1名、城陽市1名）

行政

県庁 1名（島根県）

市役所 5名（昨年度10名、B・C日程でどこまで伸びるか？）

筆記は通っても面接で苦戦する学生が多いという印象

- ・現状の課題について（田村）

法学部の入学生のおよそ半分が志望していた者が、薄れていく状況

早期からの情報提供によるモチベーションの維持、スキルアップが課題

公務員関連行事への法学部の学生の参加率が高い

公務員入門セミナー（7月、今年度はじめて開催）では、3年生よりも1年生

の参加が多かったので、引き続き接点を持ってモチベーションの維持を図る

面接対策

「仕事理解の不足」が一番の課題（なんとなく・・・ではダメ）

→ 仕事理解セミナー（警察官5月、地方公務員11月）を実施

パネルディスカッション形式で、仕事の違い・特色を学生が感じることができるようことを狙った

→ 学生に有効と思われる

→ 仕事を理解することで、大学での学びが公務員の仕事とどのように繋がるのかを、表現できるようになったと、面談を通じて感じている

・大学懇談会について（戸田）

仕事理解が進むほど、法学部の学びを楽しんでいると感じたり、官庁の仕事との結びつきが分かるようになってきていると感じている

→ 引き続き、学生が自ら動くことができるように、進路・就職支援センターでも支援をしていきたい

窓口担当者や法学部事務室の職員も、公務員の仕事についての理解を進める方策を実施してきた

国家公務員総合職は1名でも出ればランキングに表記されるので目指していく
国家公務員一般職は横ばい、受験者数・合格者数ともにもっと目指せると思う
全国的に受験者数が減っている中で、本学は受験者数を増やした数少ない大学
本学の学生は地方一本狙いの傾向があったので、国家公務員との併願などを促してきた

来年度以降も受験者数を増やしていきたい

高倍率の皇宮警察官に合格した学生もいるので、優秀な学生はいる！

人事担当者からは、京都産業大学の学生はチームワーク力があるので、出世する傾向があるという声がある

公務員の課題と直結しなくても、プレゼンテーション、ディベートなどを鍛えておいてもらおうと、（直前の）面接対策がセンターとしてもやりやすくなる
今後も、教員とセンターで協力して、学生の選択肢を増やしていきたい

2）山田啓二教授から

・京都府の採用担当と話す機会があった

今年の京都府の採用 1位・立命 2位・同志社 3位・龍谷（20名弱）

京産は1名、龍谷に大きく差を開けられている

理由：そもそも受けていない（母数が違う）

→ 京都府も、バラエティのある学生を採りたいので、京産大に期待している

・圧倒的に、産大生が公務員試験を受ける数が少ない！

・面接の模擬をやってみて気がついた点（なぜ落ちるか？）

中身としては悪くはないと思っている（公務員として平均以上がいる）
公務に対する意識が表層的！（深みがまったくない）
志望動機について「それはなぜ？」と突っ込んで聞いていくと4回目で泣き出してしまう・・・
京都市と京都府の違いもよく分かっていない・・・

- ・ 公務員とは、社会問題に対して行動していく仕事である
新聞を読んでいる、テレビを見ている学生がほとんどいない
→ これでは面接の対策をやっても無理
時事問題への関心、社会問題への意識が欠如している！！

- ・ 学生の自己肯定感が高くない
京産大出身者は出世していると思うが（京都府の中でも京大出身より出世率は良いと思う）、学力エリートではないが、メンタル的な強さがあり、現実的な強さがある。社会の中で連携してよく働く能力を持っている
その一方で、自己肯定感が低いと感じている

- ・ 龍谷大
京都府の課長クラスのリレー講座をしている（日頃から接する機会）
日頃から公務に対する関心を高める努力をしてきて、効果が出ているのだろう

- ・ セミナーだけではなく、日頃から公務への関心を高めるようにする、意識する機会をもっと持つべきではないか

- ・ 公務員は良い仕事である
安定してやりがいのある職場である
とくに女性にとって恵まれた職場である（産休育休とれる、昇進差別なし）

- ・ まとめ
良い学生、まじめな学生が多いので、公務について意識をしていくと、飛躍できるだろうと思われる

3) 質疑応答

- ・進路・就職支援センターの考える「面接に落ちる要因」は？

- 勉強ができる学生は、勉強しかしていない
経験値が豊富な学生は、勉強をしていない
バランスがかみ合っていない

- 公務についての意識が表層的になっていて、面接のときに自己肯定感の低さから考え込んでしまうので、訓練でできる部分もあるのではないか
（「ふてぶてしさ」が必要な部分がある）

- どこを鍛えれば良いか？ と悩んでいるところがある

- ・学生の気質について

- もともと京産大の法学部では公務員志望者が多くはなく、民間志望が多かった
いまは、学生の視野を広げる試みをやっている

- ・企業と大学との集いから

- 企業の面接でも、志望理由が答えられない状況にある（情熱をはかれない）

- 公務員志望者だけでなく、表層化している・・・

- だからこそ、しっかりとしたことをすれば（掘り下げる訓練をすれば）分析を
することができるようになるのではないか

- ・2010年代からは、公務員受験者が減っているように感じている

- ・他大学との違い

- 読解力（意図をくむ力）が足りないところがある

- このねらいでこの質問がされている、ということを説明すると伸びる

- 自力で質問の狙いを理解できない学生がボリュームゾーンである

- サポートの趣旨を伝える必要があると感じている

- ・男女差は？

→ 採用試験のメインは面接なので、しゃべりが上手な傾向がある女子は優秀である

→ 民間企業では、面接ではやや低くても男子学生のほうが伸びるということが言われている

→ 公務員試験でも試験結果だけでは女性が上位になるが、男性職員もいるので採っている

・「犯罪心理学」を担当する中で、心理系の受験科目が含まれる公務員職種についての質問や相談が増えた（法務教官、家裁調査官…）

自信はないが、興味・関心がある学生は結構いることが分かった

「国家公務員」というだけで敷居が高く感じる学生もいる

センターではどのように支援しているのか？

→ 家裁調査官などは、心理系の科目を選ばなくても良いようになってきた
入ってから2年しっかり研修をするため

大学での学びは必須の専門知識というより、きっかけとしてアピールできる

→ 「やっていることの先にゴールがある」のではなく、「やりたいことがあれば逆算する」というように発想の転換をする必要があるのかもしれない

・国家総合職試験は、「センター試験」のように「全科目を早く受ける機会」として位置づけてはどうか？（雰囲気や得意な点・弱点を知る機会になる）

・まず受ける人を増やす、次に受かる人を増やす、ということをやっている
大学受験する感覚（身の丈入試）、限界を超える経験をどのようにさせるか？

落ちるのを覚悟して受けてみよう！　というところから働きかけたい

その上で、受かる人を増やしていく

・消防官になりたいという高校生からの質問がある、なぜ消防官の合格が少ないのか？　消防官が第1希望で警察官が第2志望なのに、警察官しか通らない…なぜ、

結果が伴わない？

→ 採用人数が少ない、難易度が違う

消防を第一志望、そこだけしか受けないという熱心な受験者が多い

京都市消防は全国で一番難易度が高い中で、結果（率）は出している

ただ、数字としては小さいと思う

・警察・消防については、法学部の学生は、受験者を牽引する傾向がある（ピカイチ）総合安全保障論などの科目を受けていることも効果があるのではないか